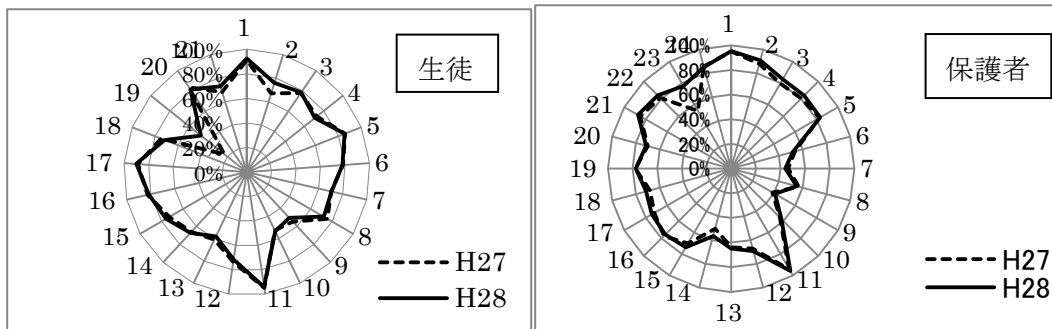


平成 28 年度 学校教育自己診断 総括

平成 28 年度学校自己診断アンケート結果より分析を行った。

〔I〕 生徒・保護者アンケートの経年変化



〔II〕 生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が 90%を超えるもの

〔生徒〕 ① 学校生活は楽しく入学して良かった。(91.2%→92.3%)

⑪ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動している。(95.1%→94.4%)

〔保護者〕 ① お子様にとって学校生活は楽しく入学させてよかった。(95.0%→95.3%)

② 本校の自主自立を尊重する伝統は、よく生かされている(87.9%→90.8%)

⑪ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒の自主性が発揮されている。

(94.2%→95.8%)

各項目ともに学校運営の指針として重要な事項であり、肯定的意見が多いのは本校の学校運営が順調であることを示している。

〔III〕 進路指導に関する事項

〔生徒〕 ⑤ 必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。(85.8%→85.4%)

進路に関するこの項目は、高い数値で推移しており、現在の指導を継続・発展させることが望ましいと考えられる。

〔IV〕 授業に関する事項

〔生徒〕 ⑦ 満足できる授業が多い。(73.4%→70.2%→70.8%)

〔保護者〕 ⑧ 満足できる授業が多いと聞いている。(56.4%→56.7%→55.0%)

最近 4 ヶ年でも連続して 7 割以上と肯定的な意見が多いが、否定的意見も徐々に増加傾向にある。ここ数年、教員の入れ替わりもめまぐるしく、今後もこの状況は続くかと予想される。教科内で連携し、三丘生が期待する授業の質の保証が必要である。

[V] 施設・設備、校内美化に関する事項

[生徒] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(86.6%→82.9%→81.7%)

[保護者] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(79.5%→77.2%→75.5%)

生徒・保護者ともに肯定的な意見が多いが、徐々に老朽化は進み、各所で点検・整備が必要な施設設備が多くなってきている。また、本校だけの問題ではないが、時代の変化に施設設備がついてきていないことも肯定的意見が減少している理由と考えられる。教員間においても、必要性や優先順位などの共通認識を持つ場が必要である。トイレの洋式化や清掃用具や掃除機の導入など時代に即応した整備が必要になってきている。

[VI] PTA 活動に関する事項

[保護者] ⑳ 現在の本校の PTA 活動は適切である。(72.9%→70.2%→71.5%)

例年、保護者・教員ともに肯定的な意見が多く、保護者同士の交流の場として果たす役割は大きい。

[VII] 三丘セミナー等に関する事項

[生徒] ⑱ 総合的な学習で受講した三丘セミナーや体験授業は役立っている。(59.4%

→74.8%→71.8%) [保護者] ㉑ 総合的な学習で受講した三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。(66.8%→81.3%→84.8%)

この項目は肯定的な意見が年々増加しており、三丘セミナーをはじめその他体験授業の充実を示していると判断でき、このまま継続・発展させるのが望ましいと考える。

[VII] スマートホンの利用について

従来は図書館の利用や読書についての質問事項が多かったが、時流に応じて今年度からスマートホンの利用についての質問に切り替えた。

[生徒] スマートホンの利用時間については、1時間未満が25%、2時間未満が41.3%、3時間未満が20.8%、3時間以上が9.4%と7割程度の生徒が毎日1時間以上の時間を費やしていることがわかった。

また、使用目的はライン、ツイッターなどのSNSが40.2%、音楽・映像が32.2%、検索等が13.2%、ゲームが意外と少なく12.2%であった。

携帯電話などでのトラブルについて質問したところ、82.7%の生徒がないと答えていたが、架空請求8.7%、チェーンメール6.7%との結果がでた。

[保護者] 家庭でのスマートホンの利用についての時間制限について質問したところ、している家庭が8.7%、していない家庭が86.5%と大半をしめていた。

携帯電話などのトラブルについては91.3%がないと答えているが、生徒のアンケート結果とは異なっている。

本校では今年度から「ネット、スマホ安全活用講習会」を全学年対象に実施したが、今後も継続的にこの分野での指導の取組みが必要と考えられる。

また、アンケートの結果、生徒の利用時間が予想を上回っていたものであったので、時間の有効な活用と SNS の利用等について一定の指導が必要であると判断し、第 2 学期の終業式に生徒指導部長よりアンケートの結果を生徒に伝えて注意を喚起した。

さらに携帯電話などのトラブルについては、保護者が知っている以上にトラブルが発生していることがわかったので、今後 PTA の連絡会等の機会に保護者にも注意を喚起することが必要であると考えられる。

[VIII] 土曜日授業の実施に関する事項

生徒も保護者も昨年のアンケートと最も大きく変化が見られたのがこの項目である。

[生徒] ⑱ 土曜授業(3年は土曜講習)により学習効果が高まっていると思う。

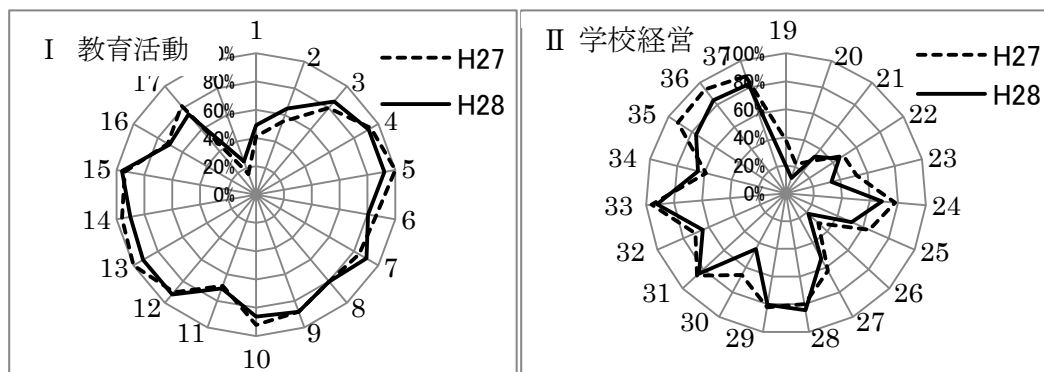
(23.3%→47.8%)

[保護者] ㉓ 土曜授業(3年は土曜講習)により学習効果が高まっていると思う。

(54.1%→77.4%)

土曜授業を既に体験した生徒(2年)と土曜授業が行われていることを前提として入学した生徒(1年)が主な対象と考えられ、その結果が反映したと考えられる。生徒と保護者の間で肯定意見の割合に30ポイント近くの差があることにも留意すべきである。生徒が部活動の公式戦等で土曜授業を公欠する状況もあることを踏まえておく必要もある。2年間の状況をみて、今後も継続的に再検討や工夫が必要かもしれない。

[IX] 教職員アンケートの経年変化



Iの教育活動については学校としての組織的運営力が強まってきた。またIIの学校経営については後退が一層進んでいる項目に関しては特に留意しなければならない。

- ① 学校では、教育計画の作成にあたって、教職員で話し合う機会が多い。
(41.2%→49.0%)
- ② 学校では、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。
(54.9%→64.7%)
- ③ 学校では、教育活動全般について生徒や保護者の願いによく応えている。
(80.0%→86.0%)
- ⑦ 学校では、教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教員とも相談することができる。
(84.3%→90.2%)
- ⑱ 土曜授業により教育的効果を高めることができたと感じる。(15.7%→25.0%)

平成26年度より分掌等の統廃合、委員会の設置など大きく組織運営が変わり、ケース会議など顔を合わせ相談し、情報を共有する機会が増えていることからの数字であると推察される。

- 26 学校では、生徒の活動の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。
(31.4%→21.6%)
- 28 学校から保護者等の外部へ発行する公文書について、校長が決裁するシステムが確立されている。
(80.0%→84.3%)
- 34 学校では、施設・設備について、適切に点検や管理が行われている。
(58.8%→64.7%)

26は学習以外の生徒の活動について、時間と場所のゆとりが無くなっている事が示唆されており、今後の教育活動への不安感が感じられる。三国丘高校の教育活動の全体を通じて再検討をする場が必要である。